



したとおり、先行き不透明な事業であり、これから将来にわたって大きな赤字を出さないという保証はどこにもありません。大きな危険を冒し、その結果、オート事業の赤字を埋めるため、市民に負担をお願いする可能性も否定できません。市の直営方式には限界があるのです。収支が黒字にもかかわらず、「民間委託」という選択を決断した理由はこのあたりにあります。

オートレース場は全国に6場あり、すでに船橋、浜松で今年の4月から民間委託が行われています。山陽オートも、同様にこれから委託先企業を選定、決定の作業を行った後、契約の細部は詰めていくこととなりますが、売り上げの一定額、仮に売り上げが伸びずに落ち込んだとしても、最低保証額を市に支払っていただける方向で話し合いをすすめていくつもりです。この委託方式で契約することができれば、契約期間中は赤字が出ないだけでなく、最低保証額の支払いも期待でき、そのお金をもって、現在、10億円を超える累積赤字も徐々に返済していくことが可能となります。既に2、3の企業から参加の意向が示されていますが、今後、事業者を公募し、オート事業にふさわしい提案をした業者に決定したいと考えています。

市民のみなさんの中でも、今回の「民間委託」という選択について、受け止め方もさまざまだと思います。旧山陽町のシンボリック的存在であったことも重々承知しています。しかし、今から2、3年、暗いトンネルの中を走り続けるであろう山陽小野田市には、市の財政を破綻させる可能性のあるものに対して、今こそ、何らかの手を打たなければならないという「緊急性」があることをどうかご理解いただきたいと思うのです。市民のみなさん、関係各位のみなさんのご協力をお願いいたします。

「市長から市民のみなさんへ」についての
ご意見、ご感想をお寄せください。

〒756-8601 山陽小野田市広報広聴課
(FAX)83-9336 (E-mail) ki-kouhou@city.sanyo-onoda.lg.jp

